

クモマスズメノヒエ

Luzula wahlenbergii Rupr.

イグサ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

石川県では、生育環境が高山(白山)の草地に限られている植物で、もともと稀産であるが、近年高山の草地が減少しつつあり、絶滅の危険があるので選定した。(現況:RO)

形態

花序が横に傾いて着くので、他種との区別は容易である。草丈15~25cm、根出葉は多数で線形、長さ5~10cm、幅2~3mm、先端は尖り、縁に白色の長毛がある。茎葉は2~3、根出葉より幅が狭く葉鞘の先端に白い長毛が密生する。花序は頂生、小枝は細く、常に先は垂れ下がる。花は1個または2~3個集まって頭状。花被片は披針形で鋭く尖り、基部は褐色、上部は淡褐色あるいは白色。

国内分布

本州中部~北海道(大雪山)、国外では千島列島、樺太、朝鮮北部、シベリア、アリューシャン列島、カムチャツカ、アラスカ、北アメリカ、北ヨーロッパ。

県内分布

白山高地区。

生態など

開花期は7~8月。

生育環境

高山の草地。

危険要因

自然遷移。

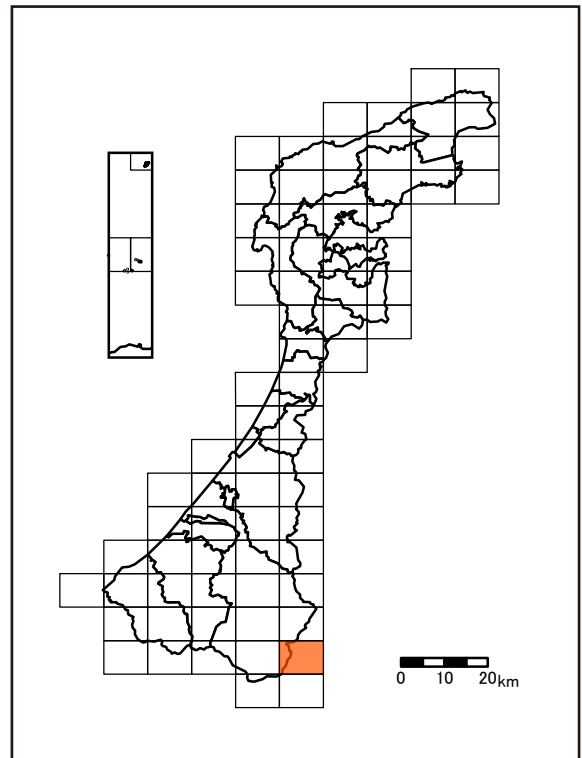
特記事項

本種の名称としては下記がより妥当である。

Luzula arculata (Wahlenb)Sw. subsp. *unalaschkensis* (Buchenau) Hultén
佐竹義輔.1982. イグサ科.「日本の野生植物 草本 I 単子葉植物」. pp. 66-72. 平凡社.



白井伸和・2007年8月17日・白山



県内の分布